

# 「あまかせ」がつなぐ 人・地域・伝統・未来

## 鹿児島県立奄美高等学校 家庭クラブ

### I 題目設定の理由

奄美高校は、奄美群島内唯一の専門高校であり、今年創立106年を迎える歴史と伝統のある学校です。

私たち家政科は、地域で「あまかせ」の愛称で親しまれており、1年生から3年生の全員が家庭クラブに所属し地域協働やボランティア活動を行っています。コロナ禍でできなかった時期を除いて、長いものではもう8年続けている活動もあります。



私たちは、これまでの先輩方がつないできた「あまかせ」の活動を更に発展させ、ICTも活用してより広く発信したいと考え、今回のテーマを設定しました。

これまでの先輩方が繋いできた「あまかせ」の活動を更に発展させ、ICTも活用してより広く発信したい！

### II 実施計画

- 1 実践活動Ⅰ
- 2 中間報告
- 3 実態調査
- 4 実践活動Ⅱ
- 5 評価と今後の課題

### III 実施状況

#### 1 実践活動Ⅰ

あまかせでは平成27年から、市内の小学生親子を対象に郷土料理教室を開催しており、毎回定員を上回る応募で、キャンセル待ちも出るなど大変人気の講座でした。



しかし、その講座もコロナ禍の影響を受け、3年間の中止を余儀なくされてしまいました。



そこで、調理講習会以外で食文化を伝える方法はないかと考え、平成27年に先輩方が作られた郷土料理冊子をリニューアルし、新たに小学生向けの「あまみのおやつレシピ」を作ることにして、ご覧のようにかわいい冊子が完成しました。隣接する奄美小学校には、この冊子と共に掲載している黒糖豆を製作して、贈呈式を行いました。子どもたちは、おい

しように「食べたことある！」や「これ作ってみたい」などと話しながら大喜びでした。その時の様子は、地元の新聞にもとりあげていただき、多くの反響をいただきました。



また、この冊子は夏休み期間に自宅で作ってもらえるように、奄美市内の全小学6年生に配布しました。

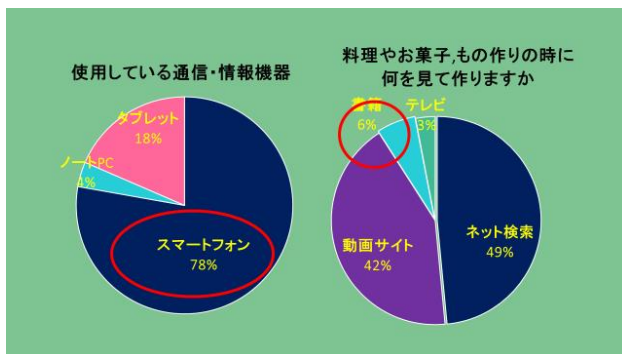
## 2 中間評価

今回のレシピ冊子は、ターゲットを小学生にして、家庭でつくりやすいことを重視しました。夏休みに入る前に小学生に配布できたことは良かったと思います。

しかし、実際に作る場所を見せられないため、「作り方の文章だけではわかりにくいのではないか」、「動画を取り入れられないか」という意見が出されました。

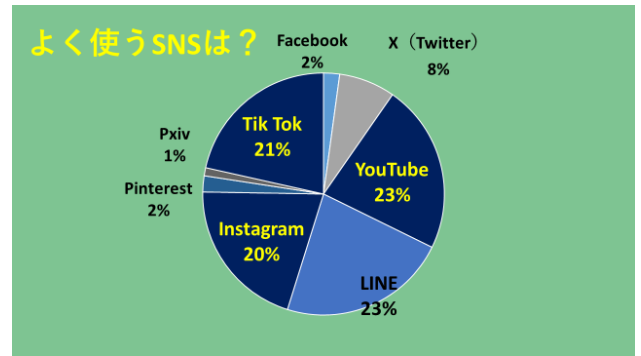
## 3 実態調査

レシピ冊子を更に発展させるため、家政科の生徒73名を対象にICTの利用に関するアンケート調査を行いました。「普段どのような通信・情報機器を使っていますか」という質問では、スマートフォンが78%と圧倒的に多く、「料理やお菓子、もの作りをするときに、何を見て作りますか」の問いでは、ネット検索と動画サイトという回答がほとんどを占め、書籍を利用する人はわずかに6%でした。



また、よく使うSNSをたずねたところ、「YouTube」や「Instagram」、「Tik Tok」などの動画サイトが多くあげられ、私たちの生活の中に動画やICT文化が根付い

ていることがわかりました。



## 4 実践活動Ⅱ

アンケート結果を踏まえ、次の活動は「幅広い世代をターゲットにした冊子作り」と「ICTを活用し動画を取り入れて、よりわかりやすく発信する」ことを目標に取り組むことにしました。

### (1) 調理動画の制作

今回はタブレットを使用し、「キャップカット」というフリーアプリを使って動画作りを行いました。長さは3分以内とし、一番よく見える角度や調理のスピードを考えながら、何度も撮り直しを行いました。音楽もフリー音源を利用するなどして編集を進めました。



動画制作と同時に、リーフレット作りにも取りかかりました。前は冊子タイプでしたが、軽くて持ち運びや配布がしやすい点を考慮し、今回はリーフレットタイプにしました。

また、動画へアクセスしやすいように、QRコードを作り掲載することにしました。リーフレットは、奄美市の公式キャラクターである「コクトくん」を使用して奄美らしさをアピール。全国総文祭やかごしま国体での配布を意識して、奄美大島をPRできる内容を盛り込みました。





QRコードは、商業科の先生に御協力いただきリーフレットの中になじむカラーリングにしました。

また前回、先輩が作った郷土菓子をモチーフにしたオリジナルのキャラクターも、今年度のクラブ員が、スマートフォンのイラストアプリを利用してリニューアルしました



そして、リーフレットの完成です！

## リーフレット完成！



紙面には、3種類の郷土菓子の作り方が、写真やオリジナルキャラクターのイラストと共に掲載されています。裏面には、奄美大島の地図と、作り方のポイントや奄美独特の素材の説明などを入れました。そして、各レシピのQRコードを読み込むと、作り方の動画が流れる仕組みです。この動画は、奄美高校の公式Instagramにもアップしており、より多くの方にご覧いただけるようになっています。

## (2) 普及活動

### ①中学生体験入学

7月21日に実施された中学生の体験入学では、食物分野に参加した中学生に、制作したリーフレットを配布し、事前の説明時間を利用して「黒糖豆」の作り方動画を視聴してもらいました。作る前に動画を見たことで、作り方のポイントがわかり、みんな上手に作っていました。



### ②全国総文祭おもてなし

7月末、奄美で開催される全国総文祭郷土芸能部門に向けて、1年生のクラブ員22名が黒糖豆を作り、おもてなしをすることにしました。パッケージには、オリジナルの郷土菓子キャラクターや、大島紬の図柄を盛り込み、奄美らしさをPR。ピーナツを使用しているため、アレルギーの注意表示もつけています。



当日は台風の影響で2日間に短縮となりましたが、全国から52校、1017名の高校生が参加して開催され、発表を終えた団体にリーフレットと黒糖豆を配布すると、皆さん興味津々で集まってくださり、中には早速リーフレットのQR

コードを読み込んで動画を見てくださったり、黒糖豆を「おいしい」といって食べてくださる方もいて、とても嬉しくなりました。私たちの活動を、全国の高校生の皆さんに広く発信することができ、大変良い機会となりました。



### ③かごしま国体の相撲競技

10月にはかごしま国体の相撲競技が奄美で行われました。県外から多くの方が来場されるため、奄美の食文化をPRしようとリーフレットの配布を行いました。皆さん、興味深そうに立ち止まってくださりとても嬉しかったです。



今年は、全国総文祭やかごしま国体が行われたため、私たちの普及活動も、全国の方々を対象に行うことができ、よりよく発信することができました。

## IV 評価と今後の課題

### 1 評価

- (1) レシピ冊子から動画配信へと、活動を発展させることができた。
- (2) 研究活動にICTを活用することができた。
- (3) 全国総文祭や国体、Instagramを通して、活動の内容を広く発信することができた。

### 2 今後の課題

- (1) 動画の種類を増やす

今回の研究では、3種類の動画しか作ることができなかったが、今後は奄美の郷土料理などの動画も増やしていきたい。

- (2) 英語の字幕をつける

世界自然遺産に登録された奄美諸島は、海外からの観光客や、クルーズ船の寄港も少しずつ戻ってきており、Instagramは世界中に発信できるので、海外を意識した取り組みが必要だと感じた。

今後もこの課題に取り組みつつ、活動をさらに発展継続させていきたいと思えます。

ぜひ皆さんも「あまみのおやつ」を作ってみてください。「ありがっさまりょうた！」

